

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200594		
法人名	有限会社 ケア・ステーション		
事業所名	グループホーム どき		
所在地	香川県丸亀市土器町西四丁目244番地		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryosyoCd=3770200594-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①グループホームどきでは限りなく「家庭に近い環境」を目指し、穏やかな生活を演出します②「明るく・楽しく・元気よく」笑いの絶えない「空間」作りを目指します③地域の方々と「つながり」を大切にしますこのGHどき理念と弊社 credo を中心としたサービスをスタッフが家族のように寄り添いながら提供します。家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、認知症により失いかけた自信と生きがい、そして笑顔を取り戻していただける家を目指しています。そして、ご家族との関わりに重きを置き、いつでも触れ合える機会を持てるよう、担当スタッフと家族との連絡体制を強化しています。それにより信頼関係を構築し、訪問していただきやすい環境づくりを行うことで、自宅にいる時と変わらない家族関係の維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

ビルの3階、4階に事業所があり、同じ建物に協力医療機関、隣接する2号館に24時間体制で看護師が常駐しており、医療との連携が密に図られ、利用者や家族の安心につながっている。利用者一人ひとりを尊重し、家庭的なゆったりとした時間が過ごせるよう、利用者の希望を取り入れた日常生活が送れるよう取り組んでいる。エレベーターや玄関、非常口は夜間のみ施錠し、外出した時は、利用者の行動を見守り、同行し、納得した上で事業所に帰ってもらえるよう取り組んでいる。緊急時以外の家族との連絡は、メールやラインを活用し、タイムリーな情報提供を行っている。外部研修や勉強会、毎週実施しているリーダー育成講座、ミーティングなど、組織として職員の育成と資質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所とホールに掲示し、職員が常に意識し、理念に沿ったサービス提供に努めている。 理念 ①グループホームどこでは限りなく「家庭に近い環境」を目指し、穏やかな生活を演出します。②「明るく・楽しく・元気よく」笑いの絶えない「空間」作りを目指します。③地域の方々との「つながり」を大切にします	開設当初に、職員が参加して事業所理念を作成した。事業所理念を、企業理念として採用している。「明るく、楽しく、元気よく」笑顔で過ごせるよう、利用者ひとり一人に応じた、ゆったりと穏やかな家庭的な支援に努めている。理念は、事業所内に掲示し、共有している。また、新人研修やミーティング時には、理念の共有に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者が地域で安心して暮らしていけるよう、管理者と職員が理念を具現化されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどに参加したり、小学生や中学生の社会科授業の受け入れなどにて交流を行なっている。また、事業所行事への参加を呼びかけている。	積極的に地域との交流に努めており、「丸亀お城祭り」や「土器町祭り」やコミュニティセンターでのイベントに参加している。事業所の「納涼祭り」が、地域の方の間で定着しており、多くの方が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページや広報誌に活動内容などを掲載し、情報発信を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、意見交換やサービスの質の向上を行なっている。	家族代表や市職員が出席し、2か月に1回開催している。事業所の活動を報告し、意見交換等を行っている。運営推進会議の開催前に、家族会を開催し、運営推進会議に家族が参加しやすいよう工夫している。	自治会や民生委員、婦人会、ボランティア等、地域の方々の参加の呼びかけを行い、運営推進会議を通じて、地域との協力関係を築くことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会にて、情報交換を行ない、協力関係を築いている。	運営推進会議やグループホーム連絡会以外にも、常に相談をし、助言が得られる関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会を通じて、全職員が理解し、取り組んでいる。状況により必要となった際は、何度もご家族と一緒に検討し、同意を得る体制が出来ている。日中は玄関は施錠していない。	身体拘束をしないケアについては、ミーティング時の勉強会で、職員の理解を図っている。医療面で身体拘束が必要な場合は、家族の同意を得て実施している。夜間のみ玄関、エレベーター、非常口は施錠している。外出する利用者の行動を見守り、同行して、納得した上で事業所に帰ってもらえるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員がミーティングや勉強会にて学んだり、再認識できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を設け、今後必要があれば支援できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、疑問点などを伺いながら手続きを行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月1回の家族会、緊急時以外のメールで、意見や要望の把握に努めている。コミュニケーションを密に行ない、不安や疑問が上がった際は、全スタッフが意見を共有し、応えられるようにしている。	面会時や毎月の家族会、運営推進会議で家族の意向や要望を把握している。また、メールやラインを活用し、家族の意見や要望を聞いている。メールで、利用者の写真や動画を家族に送信し、家族に利用者の状況がわかると喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング時など、管理者は普段から職員とのコミュニケーションをしっかりと行ない、意見を吸い上げ、サービス向上に反映できている。	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にし、日常の業務の中で機会を捉え、意見や提案を話し合っている。週1回のカンファレンス、月1回の全体会議等は時間外手当を支給し、全員参加している。会議での意見や提案を、運営に反映できる体制がある。情報は社内メールで共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全部署が集まったの全体会議が月に1回ある。職員の声が、代表者に届きやすい環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの意向に合わせて、外部研修参加の機会を設けたり、様々な内部研修を実施してスキルアップに繋げている。参加後はミーティングにて報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社主催の同業種の交流会が月に1回あり、交流の場を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人の要望などを傾聴し、安心して生活して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の要望などを傾聴し、ご理解やご協力頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞き、適切なサービス提供や対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が、共に助け合いながら生活をしている環境作りをし、関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族も含めての相談を行ないながら、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から情報を得て、その都度関係継続の支援を実施している。	本人や家族、友人などからの情報を基に、親類宅へ外出したり、2か月に一度開催される女学校の同窓会へ参加する等、馴染みの人や場との関係が、継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、お客様同士が関われるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族が来所して下さったり、スタッフが訪問したりの交流が続いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や表情の中からも、希望や意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で思いや意向を聞き取っている。意思表示が困難な利用者の場合は、日常の表情、声かけ時の反応や家族や友人からの情報を、本人本位で検討している。1対1での対話を求める利用者には、夜勤時に話をゆっくり聴いている。得られた情報は、ミーティングで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や記録、申し送りにて全スタッフが把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、ご本人や家族、関係者の意見を元に、介護計画を作成している。	家族や利用者、担当職員から得た情報を基に、毎月、全利用者をモニタリングし、全職員で話し合い介護計画を作成し、利用者・家族の同意を得ている。利用者の変化や家族の要望に対応した介護計画に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録をもとに、職員間で情報を共有しながら、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部受診や買い物など、その都度ニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、小学生や中学生が授業で来るのを楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に協力医療機関があり、適切な医療が受けられている。その他の医療機関にかかりつけ医がいる場合は、受診などの対応を行なっている。	全利用者が敷地内にある協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回往診がある。他の医療機関への往診は、基本的には家族が同行をお願いしているが、状態に応じて職員が同行している。受診結果は、家族やかかりつけ医と共有している。歯科は週1回往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の協力医療機関の看護師と、毎朝情報交換を行ない、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会へ行き、入退院時にはご家族や病院関係者との連携を取り、情報交換や関係づくりを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居時に説明している。	入居時に本人や家族の要望や意見を聞き、「重度化指針」を基に説明して、同意書による同意を得ている。利用者の状態が変化した時は、その都度、家族や医療関係者、職員で話し合い、本人や家族の希望に沿った支援を行っている。事業所での看取りの経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。研修などで実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、食料等の備蓄を行っている。火災や地震を想定した訓練を行なっている。地域との協力体制は、今後の課題である。	4階建てビル全体での防災訓練を実施し、避難場所は各ユニットのベランダである。地元消防団への協力依頼はしているが、今年は職員と利用者で訓練を実施した。事業所は、地域住民の避難場所としての役割を考えており、備蓄をしている。	職員が避難行動がとれる実践的な訓練(夜間想定を含む)の継続を期待したい。災害時は、職員のみでは限界があるので、運営推進会議等で通じて、地域住民との協力体制を築く取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の言動に対して、否定せず、誇りを傷つけない対応を心がけている。	利用者の尊厳を損なうような言葉や態度は見られない。日常業務の中で気付いた時は、管理者や職員間で注意し、利用者の尊厳を損なわないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声かけなどで、自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等に、コミュニケーションを取りながら希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションの中から、希望にそって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回(ご家族会時)は、お客様の希望を聞き献立をたて、お客様やご家族、職員で調理を行い、一緒に楽しく食べている。おやつを毎日手作りしている。昼食は、職員も一緒に食事し、コミュニケーションの充実に努めている。	朝食はユニットで調理し、昼食と夕食は管理栄養士が作成した献立を、1階厨房で調理し、利用者の食べやすい形状に盛り付けている。月1回行われる家族会では、希望メニューを取り入れ、利用者や家族、職員と一緒に調理し、食事を楽しんでいる。配膳や食器の洗浄などに、利用者の力が活かされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や嗜好を考慮した支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、一人ひとりの状況に応じた口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を取りながら、一人ひとりに応じた支援を行なっている。	時間誘導と排泄記録表を基に一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけによるトイレ誘導により、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力服薬に頼らなくて良い様に、食品やセンナ茶を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングによって、支援をしている。	週3回以上の入浴を支援している。利用者の希望により、入浴時間を柔軟に対応している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングを見ながら声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけをおこないながら、希望どおりに臥床できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を把握し、主治医・薬剤師と連携しながら支援や確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様やご家族からの情報をもとに、一人ひとりに応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は、ご家族に協力していただき支援している。日常的な散歩は、希望に沿ってその都度対応している。	季節に応じた外出は、家族の協力を得て、全利用者が参加している。買い物や散歩など、日常の外出は利用者一人ひとりの希望に沿うように支援し、外出が困難な場合は、広いベランダに出て外気浴をし、五感を刺激する機会としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だが、お金を所持したり、買い物で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ており、希望があればいつでも対応できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節が分かる掲示などで季節感を表し、皆が自然と集まれる場所作りを行っている。	玄関を入ると広いホールがあり、中央にアイランドキッチンとカウンターが設置されている。リビングにはテレビやソファが置かれ、利用者が読書など思い思いの時間を過ごせるように配慮されている。壁面には、手作りの作品や書が掲示され、生活感や季節感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は、コミュニケーションが図れたり、テレビが観やすいように等の個々の状況に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具をお持ちいただき、今までの環境に近く、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	室内は明るく、ベッドやタンスなどの使い慣れた家具やテレビを持参されており、手作りの品や写真等が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた目印などを設け、安全の確保と自立支援ができるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所とホールに掲示し、職員が常に意識し、理念に沿ったサービス提供に努めている。 理念 ①グループホームどきでは限りなく「家庭に近い環境」を目指し、穏やかな生活を演出します。②「明るく・楽しく・元気よく」笑いの絶えない「空間」作りを目指します。③地域の方々との「つながり」を大切にします
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどに参加したり、小学生や中学生の社会科授業の受け入れなどにて交流を行なっている。また、事業所行事への参加を呼びかけている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページや広報誌に活動内容などを掲載し、情報発信を行なっている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、意見交換やサービスの質の向上を行なっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡会にて、情報交換を行ない、協力関係を築いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修会を通じて、全職員が理解し、取り組んでいる。状況により必要となった際は、何度もご家族と一緒に検討し、同意を得る体制が出来ている。日中は玄関は施錠していない。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員がミーティングや勉強会にて学んだり、再認識できている。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで学ぶ機会を設け、今後必要があれば支援できるようにしている
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、疑問点などを伺いながら手続きを行なっている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月1回の家族会、緊急時以外のメールで、意見や要望の把握に努めている。コミュニケーションを密に行ない、不安や疑問が上がった際は、全スタッフが意見を共有し、応えられるようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやミーティング時など、管理者は普段から職員とのコミュニケーションをしっかりと行ない、意見を吸い上げ、サービス向上に反映できている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全部署が集まったの全体会議が月に1回ある。職員の声や、代表者に届きやすい環境が整っている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの意向に合わせて、外部研修参加の機会を設けたり、様々な内部研修を実施してスキルアップに繋げている。参加後はミーティングにて報告をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊社主催の同業種の交流会が月に1回あり、交流の場を設けている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人の要望などを傾聴し、安心して生活して頂ける様に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご家族の要望などを傾聴し、ご理解やご協力頂ける様に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望を聞き、適切なサービス提供や対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様が、共に助け合いながら生活をしている環境作りをし、関係を築いている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族も含めての相談を行ないながら、関係を築いている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族から情報を得て、その都度関係継続の支援を実施している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、お客様同士が関われるようにしている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、ご家族が来所して下さったり、スタッフが訪問したりの交流が続いている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や表情の中からも、希望や意向の把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、情報を得て把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や記録、申し送りにて全スタッフが把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、ご本人や家族、関係者の意見を元に、介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録をもとに、職員間で情報を共有しながら、ケアの見直しに活かしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部受診や買い物など、その都度ニーズに対応出来るよう取り組んでいる。
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加したり、小学生や中学生が授業で来るのを楽しみにしている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内に協力医療機関があり、適切な医療が受けられている。その他の医療機関にかかりつけ医がいる場合は、受診などの対応を行なっている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の協力医療機関の看護師と、毎朝情報交換を行ない、支援している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会へ行き、入退院時にはご家族や病院関係者との連携を取り、情報交換や関係づくりを行っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居時に説明している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。研修などで実践力を身につけている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、食料等の備蓄を行っている。火災や地震を想定した訓練を行なっている。地域との協力体制は、今後の課題である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の言動に対して、否定せず、誇りを傷付けない対応を心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声かけなどで、自己決定出来る様に働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間等に、コミュニケーションを取りながら希望にそって支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コミュニケーションの中から、希望にそって支援している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回(ご家族会時)は、お客様の希望を聞き献立をたて、お客様やご家族、職員で調理を行い、一緒に楽しく食べている。おやつを毎日手作りしている。昼食は、職員も一緒に食事をし、コミュニケーションの充実に努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や嗜好を考慮した支援をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、一人ひとりの状況に応じた口腔ケアをしている。
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を取りながら、一人ひとりに応じた支援を行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力服薬に頼らなくて良い様に、食品やセンナ茶を利用している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングによって、支援をしている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	声かけをおこないながら、希望どおりに臥床できるように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を把握し、主治医・薬剤師と連携しながら支援や確認に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様やご家族からの情報をもとに、一人ひとりに応じた支援をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠出は、ご家族に協力していただき支援している。日常的な散歩は、希望に沿ってその都度対応している。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だが、お金を所持したり、買い物で使えるよう支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の協力を得ており、希望があればいつでも対応できるように支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや季節が分かる掲示などで季節感を表し、皆が自然と集まれる場所作りを行なっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は、コミュニケーションが図れたり、テレビが観やすいように等の個々の状況に応じた対応をしている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具をお持ちいただき、今までの環境に近く、居心地良く過ごせるような工夫をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに応じた目印などを設け、安全の確保と自立支援ができるよう工夫している。